



しあわせ祈願の宮
本莊神社発行 第22号
〒500-8369
岐阜市敷島町9-24
honjojinja-gifu.gifu-city.net

山の神・田の神
本莊神社宮司 今津隆弘

◎日本人にとっての山

わたしたち日本人は、古来、山川海の自然に抱かれて生活してきました。特に全国土の七割余りを占める山は、実生活の面でも、精神的な面でも、たいそう重要な存在でした。

山や森は、食料や薬になる動植物を与えてくれる貴重な場所でしたし、神や祖霊の住処であるとともに、妖怪変化が跋扈する異界の地でもありました。

里の人々にとっては山は、川や田に水を授けてくれなくてはならない存在でしたし、海の民にとってさえも、山は航海や漁場の目印として欠かせないものでした。

こうしたなかで、山の中で直接、山が与えてくれる幸をもとに生活

してきたのは、マタギとよばれる猟師、樵、鉞山の採掘にあたる山師などです。また、山麓に住んで轆轤を回して椀や盆をつくる木地師、鉄や銅を鑄造し鍋・釜・鋤・鍬などをつくる鑄物師なども山の民です。

こうした人たちは、山には彼らに山の幸を与えてくれる神がいると信じて、山仕事にかかる前に山の神の祭りを行っていました。

一方、里で暮らす農民にとっては——ここでは水田で稲作が営まれているわけですが、山からもたらされる水によって収穫は左右されま

す。そこで、山の神は、水を分けて授けてくれる「水分(みくまり)の神」として崇拜されました。ここでは、春、山の神を「田の神」として迎え、稲作の守護を祈る儀礼が行われました。こうして山の神を迎えて稲の生長を守ってもらい、無事に収穫を終えると、田の神すなわち山の神を家

に招いて感謝を込めたもてなしをして、山に送り返す祭りが行われました。

この、山の神を田の神として迎えて豊穰を祈る祭りが現在の神社の春祭り、山に送り返す祭りが秋祭りになったと考えられています。

さらにこの山の神に祖先の靈魂が融合して、子孫を守る「氏神」と展開しています。人が亡くなるとその肉体を離れた靈魂は、三十三

盆・正月や年忌法要の追善供養のときには家に帰ってきます。こうした供養を手厚く受けることによつて死者の靈は浄化され、やがて山の神と融合して氏神となり、そして

春には山から里を訪れて子孫の農耕を守り、秋にまた山に帰っていくようになるのです。

ですから山は、祖先の靈が鎮まる場所でもあるのです。

(参考:日本人にとっての山「山岳信仰と修験道」荒木重雄)



◎自然崇拜から芽生えた神観念



金華山

かつて、神社の社殿が出来る以前、我が国では村里を見下ろす秀麗な山、或いは海原で、「ご来光」を仰ぎ、日々の暮らしの中で祈りを捧げ

てきました。今でも「ご来光」を拝する慣習が残っています。

日本人の素朴な信仰である神道は「自然崇拜」から始まったと云われ、「日神信仰」「太陽崇拜」がその根幹をなすのです。

日本には四季があり、四季はその折々に私たちの生活に潤いと恵みをもたらします。その自然の様々な働き、現象に神聖な靈力を感じ取り、それを「カミ」と称し、崇めてきました。

こうした自然風土は稲作を基盤とする農耕文化を育み、「稲」を主食とする生活様式、その生産生活の中で日本文化も形成されてきました。人々は、おひさまを中心に暮らし、朝日が昇ると朝日を拝み、日暮れには夕日に一日の無事を感謝して暮らしました。

こうした太陽の軌道を「レイライン」と云います。

レイラインは、春夏秋冬で異なりますが、多くの古社がこうしたレイライン上に祀られており、古代日本人々が太陽信仰を大切にしていた様子を伺い知ります。

国土地理院で北緯・東経を調べてみると、金華山や伊吹山はまさしく太陽の軌道(レイライン)上に位置するのです。

金華山は朝日を拝む山であり、伊吹山は夕日を拝む山です。

金華山は伊奈波の神の神体山であり、伊吹山は伊富岐神社や南宮大社の神体山として地域の人々に尊崇されてきました。

「伊吹風」で知られる強風は里で暮らす人々には有難くない風ですが、鍛冶を行うには最適な風で製鉄

の神・南宮大社が祀られるのです。また、その寒風で干し柿や真桑瓜が育ち、冬の間の冠雪の雪解け水が掛斐川となり、麓の田畑を潤します。

金華山や伊吹山は、地域の人々の暮らしを見守る大切な祖霊が鎮る山であり、生活に必要な水をもたらす大切な存在でした。

武田節の「祖霊まつり」この山河」と唄われるように、山は私たちにとって身近な存在です。信仰の山と仰がれた金華山(伊奈波山)、或いは伊吹山は、今日でも里の人々の大切な守り神なのです。

今年の「夏越祭」

「夏祭り」を顧みて

責任役員 大矢芳明

当神社では毎年七月第一土曜日「夏越祭」と、子供さんが喜ぶ企画の「夏祭り」を開催し、地元の子供会の皆さんを中心に、期待されてきました。幸いにして地元企業の皆さんのご協賛も、年々増えてきました。

「茅の輪くぐり」、そして地元子供会の皆さんが描かれた「絵」を行灯

に貼り付け、境内に展示、夜はライトアップしてきましたが、コロナ禍で、子供さん方に人気のあったバザーは、ここ三年取り止めとなっていました。

今年は何とか子供さんが喜ぶ「密を避ける」企画はないか、役員保存会の皆さんと検討を重ね、◎夏越祭では「巫女舞」の奉納、◎夏祭りでは「親子での線香花火作り体験」を決定しました。

巫女舞に際しては、巫女舞の子供さん、お母さん方、ご指導いただき先生にも、ご了承いただき、練習は扉を開けた風通しの良い拝殿で実施し、夏越祭では、拝殿の列席者でできるだけ絞り、見学者も境内を広く使っていたと、こととしました。

線香花火作り体験は、花火師と交友のある役員で紹介、拝殿に長机いすを並べ、「一教室 四十分、子供さん十名以内」とし、七月三日(日)に朝十時過ぎから夕六時前まで八教室にて実施することとしました。結果としては、巫女舞は華やかに舞っていた、沢山の参拝者から好評をいただきました。

一方、「線香花火作り体験」は

五十名の子供さんと、同伴されたお母さん方が興味深く取り組まれていました。私は、子供さんよりお母さん方が悪戦苦闘しておられた様に見え、微笑ましく思いました。

巫女舞の関連者の皆様、線香花火作り体験に参加していただきました皆様に感謝申し上げます。併せて「茅の輪」を作っていた子供さん、行灯に絵を描いていた子供さん、境内に行灯を吊るしていただいた皆さん、その後片付けをしていただいた皆さん、ご支援に對し心よりお礼申し上げます。

なお「巫女舞」「線香花火作り体験」での感想文を掲載させていただきました。併せて、今般の線香花火作りを指導していただきました真鍋花火師の投稿も掲載させていただきます。

今後とも、氏子を中心とした皆さんのご意見をお聞かせいただき、神社行事の運営に役立させていただきますと共に、一日も早いコロナ撲滅を祈念しています。

三年ぶりの「夏祭り」

小五 高崎遙

夏祭りでの巫女舞は三年ぶりだったので、少し忘れていたところもあつたけど、練習どおりに踊れて良かったです。

練習では、年上のお姉さんの踊りをよく見て思い出しながら巫女舞を踊れました。

本番では、少し緊張していたせいか、最初から間違えてしまったけれど、そこから立て直し最後まで諦めず踊れたので、とても達成感がありました。

次の巫女舞(秋祭)ではしっかりと練習を重ねて、完璧に踊れるように頑張りたいと思います。

ひさしぶりの「巫女舞」

小三 濱島詩帆

ひさしぶりの巫女舞は、楽しかったです。でも、あつくあせがたくさんでした。巫女舞のおどりははじめのほうで、きんちょうしてまぢがえてしまいました。九月の奉

幣祭ではまぢがえないようにしたいです。



本莊神社「夏越祭(夏まつり)」巫女舞 記念写真 令和4年7月2日(土) 於:本莊神社

はじめての線香花火作り

小一 小林煌生

ぼくは本莊神社で、線香花火を作る教室に参加しました。

始めに花火師の先生二人が自己紹介をしてくれて、大きな花火大会で花火を打ち上げたり、東京オリンピックでも花火を打ち上げたと言っていて「すごいなあ」と思いました。そして先生が線香花火を作るお手本を見せてくれて、神社の人達にも教えてもらいながら自分ですら

本を作ってみました。二本、三本と作っていくとだんだん上手になってきて先生や神社の人からほめられて、うれしかったです。

先生が作ってくれた線香花火とぼくが作った線香花火を家で火をつけてみたら、ぼくが作ったものはすぐに火が消えてしまったけれど、先生がつくったものは、長い間火が消えずにきれいに光っていました。やっぱり先生は『すごいなあ』と思いました。



はじめての線香花火作り

小五 末吉恵菜

お母さんから線香花火が作れると聞いて、楽しみにしていました。できている花火に、好きな模様を書くのかと思っていただけ、燃えるし

かけを本当に作れてびっくりしました。

花火師の先生の説明が分かりやすかったからむずかしくなかったです。こよりをまっすぐに巻くところはむずかしかったです。

作る前に花火師の先生がしてくれた線香花火の話がおもしろかったです。

作った花火をやってみると、花火師の先生が言っていたみたいに首ができて花火は、うまく火の玉ができました。きれいでした。また作りたいです。

線香花火作りを体験して

小六 寺島清太郎

本莊神社・夏祭りの日に「線香花火作り」をしました。花火を作るのは初めてだから、どうやって作るのだろうと思いつながら参加しました。

花火師さんが、細長い紙を指でねじって『こより』を巻いていくのを見せてくれ、ぼく達もマネをしました。始めのうちにはうまくいきませんでした。やがてコツをつかんできて、やっているうちにスピードも

ついてきました。

花火師さんの作った線香花火はピンといているけど、ぼく達の作った線香花火は少しぶかっこうでした。

家に帰って作った線香花火と買った花火に点火したら、ぼくが作った花火はうまく火が出なかったのもあったが、買った線香花火と同じようにパチパチと火が出たのも何本かありました。

来年もこのような「花火作り」があったら参加したいです。そしてパチパチと火が出る花火をたくさん作りたいです。

楽しい企画をありがとうございました。

線香花火作りを体験して

小六 中村駿一

「親子・線香花火作り体験」は本莊神社の拜殿で行われていて、ぼくはドキドキして特別な場所に入りました。そして本物の花火職人さん二人が線香花火の作り方を教えてくれました。紙のはしを折り、そこに火薬を入れて、『こより』にしてよ

じれば完成です。やってみると火薬がこぼれたり、うまくよじれなくて、思ったより難しかったです。町内のおじさんがとなりでコツを教えてくださいました。そうしたら、ぼくは母より三倍多くの線香花火を作ることができました。

最終組で体験したぼく達は特別に、打ち上げ花火の玉や火薬の『星』に触り、その仕組みを教えてくださいました。『星』一ミリのズレは、打ち上げ花火では十メートルのズレになるから、手作りする職人さんはすごいと思いました。

花火は外国にもあるけれど、線香花火や球形の打ち上げ花火は日本独自だそうです。

自宅で母と線香花火に点火してみました。いつものより大きく明るい玉ができて、とてもうれしかったです。もつと花火で遊んだり、花火大会にも行きたいと思いました。



線香花火作りを体験して

末吉恵菜さん・悠馬君のお母さん

「線香花火を作ってみました？」と子どもたちに尋ねると、すぐに「やりたい！」と声をそろえて返事が返ってきました。花火をするのではなく、作ることを確認すると、「よけいやりたい！」と盛り上がっていました。

当日、子どもたちと参加してみると、講師の方が現役の花火師さん。ドイツや東京オリンピックにもかわわっていると聞いて、すごい！と反応してしまいました。

小学二年生の息子はゲームの影響で火薬に興味があり、本物を目の前に嬉しそうでした。感想を聞いてみると「火薬を入れるところが楽しかった」そうです。

子どもたちは、『こより』を作るのが初めてで苦戦していましたが、何とか作れていました。

後日、子供たちと一緒に作った線香花火に火をつけてみると、何本かはうまくいきました。一本は火が

そのまま上がってきてビックリしていましたが、楽しかったようです。是非、来年も子どもたちと一緒に、花火を作ってみてください。



線香花火作り体験のワークショップを終えて
Kokokara Terrace
代表 眞鍋拓也

あいにくの天気からスタートした当ワークショップでしたが、多くのお子様、保護者の方にお越し頂き、大変盛り上がりを感じております。ありがとうございました。

私は長年打ち上げ花火に携わり、花火の素晴らしさを打ち上げて伝えてまいりましたが、観覧して頂いている方に直接花火のことをお伝えできる機会はそう多くありません。

今回、ご縁があつて本莊神社様の

イベントにお招きいただき、そのような機会を頂けたことに大変感謝しております。

コロナ禍でなかなかイベントに参加できないお子様に喜んでもらうと企画された今回のイベントに携わることができ、大変光栄に思っています。

イベントを通じて、線香花火の作り方を知って頂くことはもちろん、花火の奥深さや美しさ、それを作り出すことの難しさなどを感じて頂ければと思います。イベントの内容、話すことなどを熟慮しましたが、そういったことが少しでも伝わっていれば幸いです。

花火は「科学」と「芸術」が共存するコンテンツであり、日本人にとっては非常に馴染み深く、文化といっても過言ではないほど浸透していると思います。しかし、それにも関わらず、その技術や仕組みはほとんど明かされておらず、どうやって花火が作られ、どのようにして打ち上げられているかは知る人は少ないと思います。

それは、各花火会社が門外不出として、情報や技術の漏洩に対し、非

常に神経質になつていたことも関係しています。

しかしながら、その仕組みや原理を知って頂くことで、花火の見方が変わり、より興味関心を持つて花火を見て頂くことができるのではないかと感じ、このようなイベントを実施しております。



今回のイベント通じ、花火の奥深さや花火作りの難しさを知って頂くことで、「プロの仕事」の大変さや、上手にそして美しく、また使いやすいい製品を作り上げるためには、日々のためまぬ努力や研究、鍛錬などが必要であることを感じて頂けたら

などと思います。

最後に、新型コロナウイルスの感染拡大、感染防止による影響はまだ続きそうです。

子どもたちにも我慢や制限があることで、今まで楽しめてきたことが体験できない状況が続くでしょう。また、親御さんもそういった中での子育ては大変なこととお察し致します。

どこかに行くことは難しいかもしれませんが、庭先や公園などで家族の時間を過ごすことはできると思いますので、是非花火を楽しんで頂けたら嬉しいです。

また、例年ほどではありませんが、打ち上げ花火などの花火大会も昨年より開催されており、私も今年はずでに何度か打ち上げをしてまいりました。

もう夏は終わりに向かっておりますが、花火大会はまだ各所で予定があります。それぞれが感染対策を講じたうえで、花火を楽しんで頂けたら嬉しいです。

来年はもっと多くのお子様楽しんで頂けるイベントになればと思いますし、当方としてもそういった

たイベントに昇華できるよう進化した内容でご提案させて頂ければと思います。



また皆様とこのイベントでお会いできることを楽しみにしております。

本莊神社からの「お願」・「お知らせ」

★現在「七五三祈禱」募集中！

氏子地域にお住まいの皆様方には、自治会毎に毎月の境内清掃を分担していただき、皆様方のご支援をますます紙上をお借りして有難く厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、四季折々の祭礼は恙なく齎行出来ますことは、偏に地域の皆様のご理解とご協力のたまものでございます。

さて、この度皆様方に神社の「お願い」と「お知らせ」を掲載させて頂きます。

1、保存会の会員募集の件

本莊神社の運営は、各町内の代表の氏子総代の皆さん、神社の役員及び、保存会等の皆さんのお力で成り立っております。

神社の仕事は、祭礼時の社殿の幕張り、幟旗の掲揚、胡床(折り畳イス)の設置、お供え物の配列等の準備、さらには後片付けがあります。

春の大祭の際には、神前に供える「うろこ餅」を作ります。

夏越祭では、「茅の輪」を作り、夏祭りでは、子供さんが描いた絵を行灯に貼り、それを境内に吊します。その際、電気配線工事が発生します。拝殿から電線を牽き、行灯に電球を配し、夕闇でも地域の皆さんが、この明かりにより行灯の絵がきれいに見られるように工夫しています。秋には、境内の「銀杏拾い」「銀杏洗い」があります。

年末には、社殿用の「しめ縄作り」「年賀の参拝者を迎え、また左義長にも用いる篝火用の「薪」の準備も必要です。

このように神社の仕事は多岐に亘ります。

これらの作業は、氏子総代の皆さんが参加しやすい休日を優先していますが、残念ながら土日祝祭日以外の日程もかなりあるのが現状です。

そこで、当保存会では、

- (1) 日々、多少の時間的余裕のある方で、「都合がつけば、神事運営に携わってほしい」と云われる方には是非ご加入をお願いします。
- (2) また地域の同年配の皆さんとのコミュニケーションを希望される方も、是非ご加入下さい。
- (3) 電気・土木・建築工事・庭木の手入れなどの資格、経験のある方はもちろん、ご関心のある方も大歓迎です。

保存会に応募いただきましたら「年刊日程」をお知らせしますが、ご

都合のつかない時は、欠席されても構いません。お気軽にご応募下さい。お待ちしております。

2、巫女舞の巫女さん募集の件

現在、地元の小中学生十数名の巫女さんにより、祭典時に巫女舞を奉納していただいております。

巫女さんも年々進級され、学業中心となりますので、毎年巫女さんを新規募集しています。



- (1) 原則、小学生以上の女子児童を対象としています。巫女舞装束は、神社から貸与致します。
- (2) 巫女舞を奉納する祭典前に数回、原則土曜日の夕刻に神社の社務所にて稽古を予定しています。
- (3) お集まりいただいた皆さんには、毎回お菓子を用意しています。楽しみにご参加下さい。

(4) 神社への送迎は、ご家族の方にお願ひしています。

3、神社花壇に「鉢植えの花」提供依頼の件

神社の花壇「しあわせの庭」は、花壇委員会で季節の花を咲かせようと手入れしています。

この花壇にはプランターを掛ける棚を設置しています。そこで、

- (1) 皆さん自らが咲かせた「鉢植えの花」(プランター)をこの棚にご自由に飾って下さい。

- (2) 日々の「水やり」は、花壇委員会が担当します。

4、「ご祈祷」受付の件

- (1) お子さんの「宮参り」、「七五三」、「厄祓い」など様々な人生儀礼に関するご祈祷を承っております。
 - (2) その他、「新築」、「転居」、「新車購入」等、様々なご祈祷を承っております。
- ご祈祷は、日時をお電話でご予約をお願い致します。

5、ホームページの開設の件
しあわせ祈願の宮・本莊神社の公式ホームページを開設しています。神社の様々な情報を掲載しておりますので、是非ご覧下さい。



ホームページ



facebook



【ご祈祷お申し込みフォーム】からお申し込み下さい

しあわせ祈願の宮

本莊神社

ご祭神・ご由緒 | しあわせ祈願の宮 | 年中行事 | お礼・お守り・ご朱印 | アクセス

『しあわせ祈願の宮』本莊神社の公式ホームページです

Find us on **facebook**

ご祈祷のお申し込みはこちら

① **ご祈祷お申し込み**

出張ご祈祷お申し込み

本日の日付
令和3(2021)年

【令和3年祭典予定】

1月 1日 午前10時	歳旦祭・四方拝	毎月第1土曜日 午前10時
1月14日 正午	左義長神事	
2月17日 午前10時	祈年祭	1月2日、2月6日、3月6日
4月 5日 午前10時	例祭	4月2日、5月1日、6月5日

【月次祭】

ご祈祷お申し込み書

公開日：2021年3月6日 | 最終更新日時：2021年3月6日 | カテゴリー：ご祈祷・出張祭

② **ご祈祷お申し込み書**

ご祈祷希望日時 時刻

日 時 午前 時 分 / 午後 時 分

〒 -

ご住所

連絡先(電話番号)

郵便料 円

連絡欄

③ **確認画面へ**

- ① 【ご祈祷お申し込み】をクリック
※モバイル版は下にスクロールしていくとあります
- ② 【ご祈祷お申し込み書】を記入
- ③ 【確認画面へ】をクリック

ホームページはこちらから

<http://honjojinja-gifu.gifu-city.net>



お電話でのお申込みも受け付けています

058-201-5381

本莊神社でご祈祷受付の
ご案内

本莊神社では、様々なご祈祷を受け付けています。
神職が常駐していませんので、予め電話連絡にて日時の調整の上ホームページのご祈祷申し込みフォームにてお申し込み下さい。

【ご祈祷の願(ごまじ)】

- 家内安全
- 商売繁盛
- 旅行安全
- 初宮まいり
- 七五三
- 病氣平癒
- 縁結び祈願
- 自動車お祓い
- 厄除け
- 安産祈願
- 心願成就

【出張ご祈祷】

- 地鎮祭
- 開店祓い
- 竣工祭

その他、ご相談下さい。

◆ 社務所連絡先

(〇五八)二〇一一五三八一